

中期教育プログラム「時代と無意識」（小林康夫、原和之）

概要

われわれははじめから歴史のなかに存在している。世界の外に存在することを考えることが困難であるように、歴史の外に存在することなどほとんど考えられない。思考も科学も政治も芸術も経済も、人間が構成するものは、歴史というわれわれの根源的な存在様態に貫かれた事象であり、かつ歴史そのものがそのようにして構成されたもののいっさいである。

ある出来事によって歴史的時間性が切断されることで姿を現わすのが「時代」である。とりわけ、「モデルニテ (Modernité)」という「時代」は、ほとんどはじめて歴史が「時代」として自らを規定する「時代」であったと言えるだろう。これ以降、歴史は、それ以前の時間からつねにすでに切断されたものとして、また、来たるべき時間への新たな切断と飛躍のための助走として——すなわち、「時代」として区切られた時間性・空間性として現象し、経験され、記述され、表現されるようになる。

本プログラムでは、時代 (= 歴史的時間性) を実存者にとっての根源的な経験として考察し、実存と時間とがロゴスにおいて調停されることで生み出されてきた歴史の哲学、つまりは哲学の歴史を国内外の研究者とともに多元的に再検討する。時代と哲学に対する複眼的な考察を効果的にこなうために、事業推進担当者・原和之の研究「精神分析と哲学=愛知」、若手研究員・西山雄二の公開共同研究「哲学と大学」と連動しながらプログラムは進められていく。

スケジュール(予定)

2007年 冬学期	10月～	共生のための国際哲学基礎論 II 「時代と無意識」 小林康夫 於東京大学
	1月8日	国際シンポジウム「哲学と教育」 Alain Juranville, Francisco Naishtat, 小林康夫、原和之、西山雄二、郷原佳以ほか 於国際哲学コレージュ (パリ)
	2月23日	シンポジウム「哲学と大学」 西山雄二、小林康夫ほか 於東京大学
	3月下旬	国際セミナー「時代と哲学」 小林康夫、中島隆博ほか 於ニューヨーク大学
2008年 夏学期	4月～	共生のための国際哲学基礎論 V 講義「時代と無意識」 小林康夫 於東京大学
	7月	共生のための国際哲学演習 VII PD、RA による予備的報告
	6月 (2週間)	共生のための国際哲学特別研究 I 「精神分析と哲学=愛知」 Alain Juranville (レンヌ第一大学) + 原和之 於東京大学
2008年 冬学期	10月～	共生のための国際哲学演習 VIII 「時代と無意識」 小林康夫 於東京大学
	10～11月	共生のための国際哲学特別研究 VIII 「時代と暴力」 Pierre Bayard (パリ第8大学) + 小林康夫 於東京大学
	10月	国際シンポジウム「時代と暴力」 Pierre Bayard、小林康夫ほか 於東京大学
	11月	国際シンポジウム「大学の未来」 西山雄二、小林康夫ほか 於ブエノス=アイレス大学
2009年 夏学期	4月～	共生のための国際哲学演習 IX 「時代と無意識」 小林康夫 於東京大学
	6月	共生のための国際哲学特別研究 IX 「精神分析の歴史・理論研究」 Paul-Laurent Assoun (パリ第七大学) + 原和之 於東京大学